

事前評価調査

事業名	いきいき水路モデル事業（玉串川地区）																						
担当部署	環境農林水産部中部農と緑の総合事務所地域政策室（連絡先 072 - 994 - 1515）																						
事業箇所	八尾市二俣～山本町南																						
事業概要	目的	<p>八尾市域を南北に流れる玉串川は、地域の農地 103ha をかんがいするための重要な農業用水路である。しかしながら、近年、護岸の老朽化が著しく、大きく育った桜の樹根の影響もあり、至る所で護岸ブロックや石積が崩落し危険な状況となっている。</p> <p>このようなことから、護岸の整備を行うことで、崩落や溢水被害を未然に防止し、農業用水路の機能の確保及び農業経営の安定を図るとともに、さらなる地域の良好な景観の確保等を図り、地域住民によりよい環境を提供するものである。</p>																					
	内容	<p>事業区間 L = 3,498 m</p> <ul style="list-style-type: none"> 水路整備工（護岸整備） L = 3,498 m（事業区間） 利活用保全施設工（防護柵、遊歩道等） L = 3,498 m（事業区間） 																					
	事業費	<p>全体事業費：約 9.9 億円（負担区分（本体）：国 50%、府 25%、市 25%） （負担区分（利活）：国 50%、府 15%、市 35%） （内訳）調査費等 約 0.4 億円 工事費 約 9.5 億円（本体 約 7.8 億円、利活 約 1.7 億円）</p>																					
		【事業費の積算根拠】	【工事費の内訳】																				
		基本設計により、既存資料収集及び現地調査を行い、水路標準断面を定め、それに基づく工事数量を算定し、積み上げにより事業費を算出した。	護岸工 約 6.9 億円	防護柵工 約 1.3 億円	歩道設置工 約 1.2 億円	照明工 約 0.1 億円																	
	事業費の変動要因	<p>【他事業者との協議状況】 特になし</p> <p>【今後の事業費変動要因の予測】</p> <p>事業実施にあたっては、八尾市、築留土地改良区、地元等関係機関との協議の場において、整備内容について、景観の向上並びに地域住民へのよりよい環境の提供など、平成 21 年度に細部検討を行うため、設計内容の変更を生じる可能性がある。</p>																					
	維持管理費	-（他機関（八尾市、築留土地改良区）へ引継ぐため）																					
関連事業	なし																						
上位計画等の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> ・おおさか農空間づくりアクションプラン（H17.3） ・第 4 次八尾市総合計画、八尾市都市計画マスタープラン（H13.3） 																						
優先度	<p>本水路は、護岸の老朽化が著しく至る所で護岸ブロックや石積が崩落し、危険度が非常に高く、護岸が崩壊した場合農作物、農業施設などの農業経営はもとより、隣接する歩道や府道の崩壊につながる恐れがあり、さらには下流域へ大きく広がった周辺住宅地への甚大な被害が想定されることから、地域防災面より早急に改修する必要があり優先度は高い。</p>																						
事業の進捗予定	事業段階ごとの進捗予定と効果	<p>H21 国庫補助事業として採択予定（農林水産省） 工事計画の策定（実施設計）</p> <p>H22 工事着手予定～H25 事業完了予定</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>H21</td> <td>H22</td> <td>H23</td> <td>H24</td> <td>H25</td> </tr> <tr> <td>進捗</td> <td>実施設計</td> <td>水路整備工</td> <td>水路整備工</td> <td>水路整備工</td> <td>水路整備工</td> </tr> <tr> <td>効果</td> <td></td> <td colspan="4">農業経営の安定を図るとともに、溢水被害を未然に防止する。</td> </tr> </table>					H21	H22	H23	H24	H25	進捗	実施設計	水路整備工	水路整備工	水路整備工	水路整備工	効果		農業経営の安定を図るとともに、溢水被害を未然に防止する。			
		H21	H22	H23	H24	H25																	
	進捗	実施設計	水路整備工	水路整備工	水路整備工	水路整備工																	
効果		農業経営の安定を図るとともに、溢水被害を未然に防止する。																					
完成予定年	平成 25 年度																						

事業を巡る社会経済情勢	<p>【地域及び水路の現況】</p> <p>概況</p> <p>八尾市域を南北に流れる玉串川は、大和川付け替え以前の旧大和川本流の一つで歴史ある水路であり、地域の特産物である“えだまめ”や“若ごぼう”などの用水源であるとともに、水路沿いには桜並木や石積護岸など地域の良好な景観を形成している。しかし、近年、護岸の老朽化が著しく、大きく育った桜の樹根の影響もあり、至る所で護岸ブロックや石積が崩落し危険な状況となっている。</p> <p>諸元</p> <p>石積及びブロック積護岸水路 延長 L = 3,498 m 水路底幅 約 2.3 m～約 3.8 m</p> <p>【受益面積】</p> <p>103.1 ha</p> <p>【護岸崩落に伴う溢水被害の影響】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害想定区域 44.5 ha ・浸水想定戸数 2,239 戸 ・想定農地被害面積 4.5 ha ・想定被害額 2,263,121 千円 <p>【生息する生き物】</p> <p>玉串川では、コイが多く見受けられる他、フナ、メダカ、オイカワ、カメ、ザリガニなどの生き物が生息している。</p>
	<p>事業実施にあたっては、水路管理者である八尾市及び築留土地改良区からの要望をはじめ、地元からも遊歩道の整備等の要望がある。このようなことから、地元の自治振興委員会（沿川の 3 委員会）委員長を通じ、沿川住民へ整備イメージ図を示すとともに玉串川に関するアンケート調査を行い、事業推進を図ったところである。</p> <p>今後は、八尾市、築留土地改良区、地域住民との協議の場を通じ、整備内容について、景観の向上並びに地域住民へのよりよい環境の提供など、細部検討を行い、地域に愛される玉串川の整備を進めていく。</p>

事業効果の分析	具体的な便益内容		備 考
	費用便益分析	<ul style="list-style-type: none"> ・ B / C = 2.83 便益総額 B = 22.39億円 <ul style="list-style-type: none"> ・ 維持管理節減効果 0.03億円 ・ 災害防止効果 0.04億円 (農業関連資産) ・ 災害防止効果 21.66億円 (一般資産) ・ 災害防止効果 0.66億円 (公共資産) 総費用 C = 7.89億円 <ul style="list-style-type: none"> ・ 当該事業費用 6.81億円 ・ その他費用 1.08億円 	【算定根拠】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな土地改良の効果算定マニュアル (H19.3策定 / H20.3追補) により算出 <ul style="list-style-type: none"> ・ 総便益 災害防止効果や維持管理費節減効果など、評価期間における効果額を現在価値化し算出 ・ 総費用 当該事業による費用に資産価額及び評価期間 (当該事業の工事期間 + 40年) における再整備費を加え、評価期間終了時点の資産価額を減じた事業費を現在価値化し算出 ・ 受益者 受益農家、地域住民
		その他の指標 (代替指標)	環境便益の評価 仮想評価法 (CVM) による 効果額 231,967千円/年 (B/C = 1.35) アンケート配布数 1,780票 うち、1,123票回収 (回収率 63.1%)
定性的分析	<安全・安心> 護岸整備により、水路の安全性が向上し、護岸崩壊などによる溢水等の被害を未然に防止することができ、安全な生活環境が形成される。 <活力> 護岸整備により、農業用水路の機能が確保され、農業経営の安定を図るとともに、地域農業の振興に寄与する。 <快適性> 身近で快適な水辺環境の創出により、人々にやすらぎとうるおいを与える。 <その他> 歴史的に由緒ある農業用水路である玉串川を保存することができる。		

自然環境等への影響と対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事施工にあたっては、低排出ガス機械を使用するなど、環境に配慮した施工に努める。 ・ 護岸の整備にあたっては、現景観が失われないよう、石積の再利用や景観に配慮した素材を用いるなど、景観の確保に十分配慮する。 ・ 玉串川には希少種は確認できないものの、多種多様な生き物が生息していることから、工事施工にあたっては、生き物に十分に配慮し施工する。 		
	代替案との比較検討		
代替案との比較検討	対策方法	代替りの用水源の確保	水路整備
	用水確保方法	新規用水源の確保が必要	既存の用水源を活用
	用地買収	新規に整備する用地が必要となり用地の取得も困難	水路内等、既存の用地内で対応が可能
	工事費	用地造成から必要となり、既存施設利用よりも割高	既存施設を活用するため、新規整備に比べ割安
	維持管理費	新規施設となるため、用水管理など基本的な経費から必要となる	通常の維持管理費に加え、利活用施設は、地元市の管理となる
	周辺環境への影響	新規施設となるため、周辺環境への対策が必要	既存施設利用のため、工事対策以外は必要なし
	耐用年数	長期	長期
総合判定	×		
その他特記すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 玉串川に隣接する道路は府道及び市道であり、地域住民の生活道路や通学路として活用されているが、一部区間は狭隘であり、歩行者と車両が混在して危険な状況である。本事業で整備した管理用通路を活用することにより、歩車の分離が図られ地域の安全性の向上にも寄与する。 		

評価結果

「事業実施は妥当」

いきいき水路モデル事業 (玉串川地区) については、護岸の崩壊を防止し安定した農業用水を供給していく必要があり、災害防止、農業経営の安定などの効果が認められることから「事業実施」とする。

「玉串川地区」位置図所在地：大阪府八尾市

【事業区間】

- ・水路整備工(護岸整備) L = 3,498m
- ・利活用保全施設工(防護柵、遊歩道等) L = 3,498m

事業計画位置図 S=1/5000



玉串川地区(八尾市)

標準断面図

